

寄稿

力を合わせ、感染症の克服を！

小田原市長 加藤 憲一

新型コロナウイルスは発生確認から2か月ほどで全世界を巻き込む事態に至り、感染拡大に伴う社会的混乱が続いています。「気候変動」に加え、今度は「感染症」という地球規模のリスクが再認識されたこととなります。

今回改めて気づかされたのは、私たち人類は有史以来、自然界の恵みと脅威の双方に囲まれ、困難にも適応してきた存在であり、こうした局面はいつでも

起こりうるということ。起ころうとすることです。高度な文明社会となった今、感染症が私たちの暮らしや経済に及ぼす影響は複雑かつ深刻ですが、対処の方という点では、過去にも学ぶものが多くあると思われまます。

最終的な目標は社会的免疫力の獲得ですが、当面は何といつても治療法を急ぎ確立すること。検査体制と治療法さえ整えば、インフルエンザなどの感染症と同じように、社会活動

を止めずに済みます。それでも、その間の混乱や社会的停滞を乗り切る策が必要です。

かつて飢饉のときに二宮金次郎が藩の米蔵を開けさせて人々を救ったように、すでに極めて深刻な影響を受けている飲食・観光業など、地域の中小企業や働き手への支援が急務です。国や県の財政出動が待たれるところであり、市としても可能な策を打つべきと考えています。

また、金次郎は「救荒のための備蓄を3年分持たなければ、国家ではない」と喝破しました。困難に備えた「備蓄」は、当時は「藩米」でしたが、今は地域として

の財政余力であり、国境封鎖で世界的な物流にも支障が出る中、住民を守るための食料生産・医療・福祉・経済循環などを含む、総合的な「自給能力」とも言えます。

いずれにせよ感染症の影響はしばらく続くでしょう。しっかり情報共有し力を合わせて感染拡大を防ぎつつ、感染症リスクにも対応できるよう、地域の力を高めていきたいと思います。



かとうけんいち
1964年小田原生まれ。小田原高校・京都大学法学部卒。2008年5月小田原市長に初当選、現在3期目を務める。「持続可能な地域社会」づくりに向け奮闘中。

また、金次郎は「救荒のための備蓄を3年分持たなければ、国家ではない」と喝破しました。困難に備えた「備蓄」は、当時は「藩米」でしたが、今は地域として

私が変わる・小田原が変わる
おだわらを拓く力
(加藤けんいち後援会)
小田原市栄町2-13-1-2F
TEL.0465-21-5260
(月・水・金 10:00~17:00)
<https://www.katoken.info>